

平成 22 年度

財団法人いわき市教育文化事業団決算書

(抜粋)

自 平成 22 年 4 月 1 日

至 平成 23 年 3 月 31 日

財団法人いわき市教育文化事業団

目 次

	ページ
・ 事業報告書	1
・ 決算報告書	11

事業報告書

目 次

概 況	ページ
1 総括事項 -----	3
2 議決事項 -----	4
業 務	
1 文化財部門	
(1) 文化財発掘調査 -----	5
2 施設部門	
(1) いわき市アンモナイトセンター -----	5
(2) いわき市考古資料館 -----	6
(3) いわき市立草野心平記念文学館及び草野心平生家 -----	6
(4) いわき市暮らしの伝承郷 -----	7
(5) いわき市生涯学習プラザ -----	8
3 職員に関する事項	
(1) 事務局 -----	10
(2) 教育文化施設 -----	10

概 況

1 総括事項

平成22年度の当財団の運営は、回復の見えない地域経済を反映し、当初約700万円の収入不足と厳しい状況が予想されていました。

このため、役職員一丸となり、市内外における発掘調査受託のための積極的な活動と、人件費の削減や事務の簡素効率化による節減・削減に努めてまいりました。この結果、最終的には約1千万円に近い黒字決算となりました。

文化財部門では、市内および浪江町や相馬市など相双地区の調査、緊急雇用創出基金事業などに加え、新たに中通りの川俣町、会津の下郷町の調査を事業受託するなど、事業受託件数では前年度を2件下回りましたが、収入額では約2千万円ほど上回ることができました。浪江町清水遺跡や久之浜バイパス試掘調査は、現地調査期間中に発生した東日本大震災および原発事故により、調査続行が不可能となりました。

施設部門では、6施設の指定管理者として、常に自己評価を行い、市民ニーズを的確に捉えた事業を実施するとともに、利用者の安全・安心と接遇の向上に努め、管理・運営にあたってまいりました。また、啓発広報事業の一つとして、施設の周知と冬期間の入館者の増を目的に、「訪ねてみよう！現在・過去・未来」をテーマとしたタイムトラベルスタンプラリーおよびバスツアー、ならびに教育文化施設等5施設共同企画展を開催しました。しかし、夏場の猛暑や東日本大震災による施設の利用中止などもあり、利用者の減少に歯止めをかけることができませんでした。

出版事業では、新たに歴史資料(副読本)作成業務を受託した。普及活用事業は、当財団の有する専門的知識を有償提供し、収益を計る目的で実施し、市内の公民館などを対象に前年度を大きく上回る回数の講座を開催した。研修は、質の高い専門性とサービスの確保、接遇の向上、安全・安心な施設環境の確保のための研修を積極的に推進することを目的に、今年度から職員の自主研修を制度化した。啓発広報事業として、文化財部門では3遺跡の遺跡説明会を開催し、「文化財ニュースいわき」を復刊しました。

運営改善については、行動計画の具現に取り組むとともに見直しや新たな提案などを行ってまいりました。特に、数年来の目標としていました福島県いわき海浜自然の家の指定管理者の指定に向けた情報の収集などをおこなってきましたが、福島県教育委員会が7月に実施しました指定管理者募集に応募し、二次にわたる選考の結果、12月には平成23年度から3か年間の指定管理者に決定したところであります。

しかしながら、平成23年3月11日に発生しました東日本大震災および原発事故により、両部門並びに、福島県いわき海浜自然の家の新規受託ともに業務受託が遅延するなど不透明な状況が続いておりますが、これまで以上、業務の簡素効率化を図るとともに、更なる文化の振興に努めてまいります。

2 議 決 事 項

理事会	議案番号	件 名	提 出 年 月 日	議 決 年 月 日
第1回	第1号	平成21年度決算の認定について	平成22年5月26日	平成22年5月26日
専 決	第1号	平成22年度財団法人いわき市教育文化事業団収支補正予算について	平成22年11月9日	平成22年11月9日
第2回	第1号	報酬、給与、退職手当及び旅費等に関する規程及び定年退職者の再雇用に関する規程の改正について	平成22年11月25日	平成22年11月25日
第3回	第1号	平成22年度財団法人いわき市教育文化事業団収支補正予算について	平成22年12月24日	平成22年12月24日
専 決	第1号 第2号	平成23年度事業計画について 平成23年度収支予算について	平成23年3月29日	平成23年3月29日

業 務

1 文化財部門

(1) 文化財発掘調査

ア 事業について

平成22年度の当初計画では12件の事業を予定したが、受託した事業は14件になった。事業は、いわき市内は本調査4件(遺物整理及び報告書作成含む)、試掘調査1件、遺物整理報告書作成4件の9事業である。他市町村では、本調査3件(遺物整理及び報告書作成含む)、試掘調査1件、遺物整理1件の5事業である。

事業の推移や東日本大震災及び東京電力福島第1原子力発電所事故の影響により4件の事業において委託期限の延長や委託金額の減額を行った。

主な成果は、市内の本発掘調査では、玄室内部にベンガラ(赤色)が塗布された横穴と金銅装大刀の柄やイモ貝製の馬具など貴重な資料を出土した餓鬼堂横穴群、縄文早期末から前期前葉の竪穴住居跡や土坑を検出した宇根尻B遺跡、古墳後期の竪穴住居跡が多数発見できた泉町C遺跡、縄文早期末から前期前葉の遺物包含層や古墳後期の竪穴住居跡を発見した大場D遺跡などから貴重な資料を得られた。報告書の刊行は、いわき市関係では宇根尻B遺跡・小田小路古墳・市内遺跡試掘調査の3冊を刊行した。

2 施設部門

(1) いわき市アンモナイトセンター

ア 事業について

平成22年度の入館者総数は、17,831名で前年度比5,737名の減となった。このうち、主な事業である「一般体験発掘」の参加人数は7,622名で2,586名の減、「特別体験発掘」の参加人数は2,716名で999名の減となっている。

久之浜・大久地区の自然を再認識する「親子自然探訪教室」は、平成18年度から毎月開催しており、参加者からは好評を得ている。

さらに、小中学校の夏・冬休み期間に合わせ企画展を2回開催しているが、夏休み企画展「アンモナイトの誕生から絶滅まで」は5,036名で前年度比1,828名の減、冬休み企画展「アンモナイトセンター産出化石展」は486名で前年度比93名の増であった。

また、公開シンポジウム「化石から学ぶこと」を開催し、139名の参加を得た(前年比4名減)。

3月11日発生した東日本大震災により、翌3月12日から当面の間利用中止とした。

なお、入館者数が、前年度と比べ大きく減少しているが、この主な要因として 異常気象による夏の猛暑、 国際生物多様性年に当たり、各地で生物進化をテーマにした展覧会が開催され入館者が分散したこと、 前年度はシルバーウィークのため回数が多かったこと、 年度末に東日本大震災があったこと等によるものと思われる。

(2) いわき市考古資料館

ア 事業について

平成22年度いわき市考古資料館の運営は順調に経過してきたが、平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、約20点程の土器や埴輪が展示台から転倒・破損し、建物は壁面に多数の細かい亀裂などが生じた、3月12日から当面の間利用中止となったが、幸い大事に至らずに済んだ。

東日本大震災に伴い開館日が19日ほど減ったことから、利用者総数13,783名と前年度比270名の減であった。内訳は、入館者が11,147名で前年度比1,236名の減で、青空講座や出前講座など入館者以外の利用者が2,636名で前年度比966名の増である。普及活用事業として開催した公民館への出前講座開催回数などの増が要因と考えられる。

企画展は、当初予定の企画展3回、ミニ企画展1回のほか、共同企画展1回、夏井公民館との共催展1回の計6回開催した。

講座・講演会は、各種講座のほか、企画展に合わせた講演会や展示解説会など、9講座・16回開催した。

体験学習会は、4回16日間開催し、延べ464名が勾玉づくりやハニワづくりなどを体験した。夏場に実施した「勾玉づくり体験会」と「夏休み特別体験会」は猛暑のため、「古代まつり」は台風による悪天候のため、体験者は前年度比572名減と大幅に減少した。

団体入館者は、71件2,393名で前年度比6件53名の減となった。内訳は、見学だけの団体54件1,284名、見学と体験学習をおこなった団体17件1,109名である。

このほか、各種研修への参加による職員の接遇及び質の向上に努めた。ホームページは、事業案内及び経過報告等を随時更新掲載し、内容の充実に努めた。また、門扉に案内掲示板を設置するなど、ハード・ソフト両面から市民に愛され親しまれる施設づくりに努めた。

(3) いわき市立草野心平記念文学館及びいわき市草野心平生家

ア 事業について

平成22年度は、春、夏、秋と3つの企画展を実施した。

春の企画展「生誕100年記念 草野天平展」では、平成22年2月28日に生誕100年を迎えた詩人・草野天平の生涯と作品を紹介し、天平の妻・梅乃による顕彰活動についても併せて紹介した。会期中に実施した講演と演奏会では、天平の長男・杏平氏ほかに出演いただいた。

夏の企画展「井上ひさし展 吉里吉里国再発見」は、仙台文学館の同展の巡回展で、平成22年4月に死去した井上ひさしの小説の代表作『吉里吉里人』を中心に、自筆原稿、吉里吉里国再現セットなどにより、脚本、小説、随筆など多様な井上ひさしの業績を紹介した。

秋の企画展「草野心平と石」では、草野心平旧蔵の石、石をモチーフとした詩篇、随筆等を紹介した。併せて、いわき市産鉱物、地元の方たちから借用した、いわき市小川町小玉川流域で産出する「小玉石」の展示も行った。

その他の展示としては、4つの地域文学者生誕月スポット展示、2つのスポット展示を行った。普及事業では、いわき市立御厩小学校、赤井公民館、川前公民館、神谷公民館など11箇所での出前講座の要請に応じた。サマーナイト期間のコンサートや、クリスマスのえほんコンサートなどには、多くの参加者があり、文学・芸術活動の交流の場となった。

文学館ボランティアの会事業として、庭園管理協力が文学館の畑で作ったじゃがいもをつかったカレー、大根をつかった豚汁を提供する収穫祭を2回開催し、好評を得た。

さらに、福島県緊急雇用創出基金事業「文学資料データベース作成業務」を受託し、文学資料23,314点を分類整理し、データベース化した。

東日本大震災のため平成23年3月11日で利用中止をしたことから、開館日数は294日であった。平成22年度の入館者数は18,684名で、前年度と比べて7,681名の減であった。

いわき市草野心平生家

草野心平生家は、生家ボランティアの会が解説を行っており、毎年好評をいただいているワークショップ「かえるの折り紙をつくろう」では生家ボランティアが講師をつとめている。また、「心平誕生日の朗読会」、夢想無限の会と協力した「心平忌」、「草野天平の集い」などを実施した。東日本大震災のため平成23年3月11日で利用中止としたことから開館日数は294日であった。平成22年度の入館者数は3,318名で、前年度と比べて104名の増であった。

*：生家にて実施

(4) いわき市暮らしの伝承郷

ア 事業について

平成22年度の入園者数は、22,534名で前年度より4,827名の減となった。減少の理由は、企画展示室の有料化による市民展の利用減および、東日本大震災の発生に伴い3月12日から利用中止に伴う第三回企画展の中断と関連行事2本の中止が大きく影響しているものと思われる。

伝承郷の中心的な事業の一つである景観の伝承・管理作業については、開園以来単なる管理に止まらず、昔の暮らしぶりそのものの復元と伝承をコンセプトに、水稲・畑作・里山作り・家屋の日常的な清掃・囲炉裏火焚き・薪作りなど多岐にわたり、極力昔の方法・道具を使用して実施している。園内の手入れの状況や、その作業風景そのものも来園者から好評であり、市外・県外の同様施設の職員からも高い評価を得ている。

前年度同様4回の企画展を開催した。なお、一部震災で中止となったものもあるが、4つの企画展の関連事業として、それぞれに講座や展示解説会・実演・散策会などを企画し実施した。

体験学習は、「民話の語り」や「里山探検」など予約なしで気軽に参加できるものや、「樹皮の花かご作り」や「押し花カレンダー」・「正月飾り作り」などの比較的技術を要するものなど、子

供から大人まで年齢層や古来からの年中行事を意識して企画し、通算26回の実施となった。他に学校や子供会などの要望による、「昔遊び」などの臨時体験学習16回を含め計40回を実施したが、極めて好評を得ることができた。

伝承郷講座は、民俗学講座「暮らしの伝承を学ぼう」5回、館長講座「暮らしの木曜講座」21回、合わせて26回の講話となった。

伝承郷行事では、「盆棚飾り」・「こと八日」・「農立て」・「正月飾り」など月々の伝統行事18項目を、古式にのっとり作成・展示した。また、「じゃんがら念仏踊り」や「獅子舞」・「会津万歳」などの伝統芸能の実演を行い、伝統行事の再現と実演による伝統行事の継承と伝承、合わせて年間行事の定例化による来園者のリピートを図った。

小学生を対象とした「キッズ民話語り部教室」は、語り部16名による第16期、語り部14名による第17期の2回を迎えた。5回づつのきびしい練習を経て行われたそれぞれの発表会では、合わせて340名もの聴衆が集まった。

市民の文化活動の場として定着している企画展示室の貸出については、伝承郷で行う企画展の使用期間の関係で市民に貸し出せる期間が少なくなったことにより、前年度の16回に比べて今年は9回と下回り、観覧者も減少した。

その他、ガイド等のボランティア研修会、磐城手業の会による竹細工、いわき濤笛会による篠笛演奏会、民俗・歴史に関するレファレンス事業や民具の鑑定・収集なども実施している。

なお、22年度は緊急雇用創出基金事業の一環として、収蔵民具5,100点の整理・登録事業を実施した。

(5)いわき市生涯学習プラザ

ア 事業について

平成22年度は多様化する市民の学習意欲に応えるため、課題をみつけての自主事業や施設の特徴を活かした事業、独自性のある講座など、創意工夫をこらした事業運営に努めた結果、利用者数は、東日本大震災の影響により3月末まで閉館(7事業中止)となったこともあり、前年度より10,317人少ない118,276人でした。しかし、団体及びサークル等の社会教育関係団体の利用は、全体の66%(平成23年2月末)を占めており、月平均にすると昨年とほぼ同じ200団体の利用がありました。

具体的には、市内の公民館(大浦・草野・神谷・夏井・泉公民館)との連携で「いわき再発見講座」を事業団の普及活用事業としてはじめて開催しました。加えて、高齢者や初心者を対象として、IT相談会(問題解決型)を開催するなど、ボランティアが自主的に参加できる機会や市民との交流を深める場をつくるなど、さまざまな視点から各種事業を展開しました。

また、いわきヒューマンカレッジ(市民大学)は前年度より146名多い530名の入学生を迎えて4学部(心理学部・現代アジア学部・人間環境学部・いわき学部)を開催するとともに、7回目となる生涯学習フェスティバルは、「新・まごころセール」と初めて同時開催し、地元

地域を含め全市的な交流の場を創出しました。

こうした事業の展開に当たっては、ホームページや広報いわきのほかに、講座ごとの案内チラシをとおして情報の発信や提供を行い、利用者懇談会やアンケート調査でモニタリングを重ね、市民目線に立った効率的な管理運営に努めました。

3 職員に関する事項

平成23年3月31日現在

(1) 事務局

(括弧内数字：兼務職員数、単位：名)

区分	事務局長	事務局次長 専門研究員	係長 主任研究員	副主任研究員	事務主任	主事 研究員	嘱託職員	日々雇 用職員	計
事務局	1(1)	2(1)	-	-	-	-	-	-	3(2)
企画管理係	-	-	1	-	-	1	-	1	3
調査第一係	-	1	1	1	-	1	1	-	5
調査第二係	-	-	(1)	1	-	-	-	30	31(1)
計	1(1)	3(1)	2(1)	2	-	2	1	31	42(3)

(2) 施設

(括弧内数字：兼務職員数、単位：名)

区分	館長 所長	副館長 主任主査 専門学芸員	係長 主任研究員 主任学芸員	主査 副主任研究員 副主任学芸員	事務主任 学芸員	主事 学芸員	嘱託職員	日々雇 用職員	計
アンモナイト センター	1	1	-	-	-	-	-	2	4
考古資料館	(1)	-	(2)	(1)	-	(1)	-	-	(5)
文学館	1	2	-	2	-	-	-	3	8
伝承郷	1	1	-	1	-	1	1	2	7
生涯学習 プラザ	1	1	-	3	-	1	-	6	12
計	4(1)	5	(2)	6(1)	-	2(1)	1	13	31(5)
合計	5(2)	8(1)	2(3)	8(1)	-	4(1)	2	44	73(8)

決 算 報 告 書

目 次

	ページ
1 賃借対照表	13
2 正味財産増減計算書総括表	14
3 財産目録	15

貸借対照表

平成23年3月31日現在

(単位円)

科 目	当年度	前年度	増減
資産の部			
1 流動資産			
現金預金	87,587,604	83,545,820	4,041,784
未収金	22,209,567	19,627,100	2,582,467
前払金	0	44,503	44,503
仮払金	261,477	0	261,477
未経過通信運搬費	2,020	416	1,604
未経過租税公課	5,200	6,800	1,600
製品	59,096	168,004	108,908
流動資産合計	110,124,964	103,392,643	6,732,321
2 固定資産			
(1) 基本財産			
投資有価証券	10,000,000	10,000,000	0
基本財産合計	10,000,000	10,000,000	0
(2) その他の固定資産			0
器具・備品	1,342,407	708,742	633,665
電話加入権	449,904	449,904	0
投資有価証券	11,900	35,700	23,800
その他固定資産合計	1,804,211	1,194,346	609,865
固定資産合計	11,804,211	11,194,346	609,865
資産合計	121,929,175	114,586,989	7,342,186
負債の部			0
1 流動負債			0
預り金	2,539,003	784,799	1,754,204
前受金	0	0	0
未払金	39,026,736	42,435,456	3,408,720
未払消費税	4,241,100	5,653,600	1,412,500
未払法人税等	72,000	72,000	0
流動負債合計	45,878,839	48,945,855	3,067,016
2 固定負債			0
固定負債合計	0	0	0
負債合計	45,878,839	48,945,855	3,067,016
正味財産の部			0
1 指定正味財産			0
受取出捐金	10,000,000	10,000,000	0
指定正味財産合計	10,000,000	10,000,000	0
(うち基本財産への充当額)	(10,000,000)	(10,000,000)	0
2 一般正味財産			0
一般正味財産合計	66,050,336	55,641,134	10,409,202
正味財産合計	76,050,336	65,641,134	10,409,202
負債及び正味財産合計	121,929,175	114,586,989	7,342,186

正味財産増減計算書総括表

平成22年4月1日から平成23年3月31日まで

(単位円)

科 目	当年度	前年度	増減
一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	116,200	116,200	0
事業収益	447,077,797	425,925,620	21,152,177
a 文化財調査事業収益	208,821,117	188,266,050	20,555,067
b 施設管理運営事業収益	237,194,000	236,839,000	355,000
c 出版事業収益	774,680	667,570	107,110
d 普及活用事業収益	288,000	153,000	135,000
受取寄付金	0	0	0
雑収益	2,004,576	1,679,305	325,271
経常収益計 (ア)	449,198,573	427,721,125	21,477,448
(2) 経常費用			
事業費	417,636,542	409,699,879	7,936,663
a 文化財調査事業費	182,322,726	163,863,023	18,459,703
b 施設管理運営事業費	234,612,811	238,686,119	4,073,308
c 出版事業費	690,053	7,142,190	6,452,137
d 普及活用事業費	10,952	8,547	2,405
管理費	21,152,829	12,938,742	8,214,087
a 一般管理費	20,265,061	12,776,585	7,488,476
b 研修費	538,058	162,157	375,901
c 啓発広報費	349,710	0	349,710
経常費用計 (イ)	438,789,371	422,638,621	16,150,750
当期経常増減額 (ア-イ)	10,409,202	5,082,504	5,326,698
2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計 (I)	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計 (オ)	0	0	0
当期経常外増減額 (I-オ)	0	0	0
当期一般正味財産増減額 (キ)	10,409,202	5,082,504	5,326,698
一般正味財産期首残高 (ク)	55,641,134	50,558,630	5,082,504
一般正味財産期末残高	66,050,336	55,641,134	10,409,202
指定正味財産増減の部			
基本財産運用益	116,200	116,200	0
一般正味財産への振替 (コ)	116,200	116,200	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高 (シ)	10,000,000	10,000,000	0
指定正味財産期末残高	10,000,000	10,000,000	0
正味財産期末残高	76,050,336	65,641,134	10,409,202

財 産 目 録

平成23年3月31日現在

(単位円)

科 目	金	額
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金		
小口現金	116,000	
郵便振替		
郡山地方郵便局	799,853	
普通預金	(66,671,751)	
(株)東邦銀行	60,121,578	
(株)東邦銀行	30,000	
いわき信用組合	2,518,742	
いわき信用組合	3,848,504	
(株)大東銀行	74,704	
(株)福島銀行	78,223	
定期預金	(20,000,000)	
(株)大東銀行	10,000,000	
(株)福島銀行	10,000,000	
未収金		
仮払金		
未経過通信運搬費	2,020	
未経過租税公課	5,200	
製 品	59,096	
いわき市外 調査受託料外	22,209,567	
3月市外出張旅費	261,477	
未使用切手	2,020	
未使用収入印紙	5,200	
書籍等	59,096	
流 動 資 産 合 計		110,124,964
2 固定資産		
(1) 基本財産		
投資有価証券		
(株)東邦銀行 利付国債5年	10,000,000	
基 本 財 産 合 計	10,000,000	
(2) その他の固定資産		
器具・備品	1,342,407	
電話加入権	449,904	
投資有価証券		
額面超過購入額未償却額	11,900	
そ の 他 固 定 資 産 合 計	1,804,211	
固 定 資 産 合 計		11,804,211
資 産 合 計		121,929,175
II 負債の部		
1 流動負債		
預り金		
所得税、市県民税、社会保険料外	2,539,003	
前受金	0	
未払金	(39,026,736)	
	9,920,296	
	29,106,440	
未払消費税	4,241,100	
未払法人税等	72,000	
流 動 負 債 合 計		45,878,839
2 固定負債		
固 定 負 債 合 計		0
負 債 合 計		45,878,839
正 味 財 産		76,050,336